

資 料 編

資 料 編

1. 熊本市の自然環境	1
2. 法令による指定地域等	5
3. 熊本市の重要な地域等	18
4. 策定の経緯等	29

<資料>

資料 1 熊本市の水域（河川・湖沼・ため池・干潟）	2
資料 2 熊本市の標高区分	3
資料 3 各区の地形の特徴	4
資料 4 各区の植生の特徴	4
資料 5 熊本市における自然公園区域の位置	8
資料 6 熊本市における鳥獣保護区の位置	9
資料 7 熊本市における風致地区の位置	10
資料 8 熊本市における保安林等の位置	11
資料 9 熊本市における天然記念物一覧	12
資料 10 熊本市における主な天然記念物の解説	13
資料 11 熊本市における天然記念物の位置	15
資料 12 熊本市における環境保護地区の位置	16
資料 13 熊本市における保存樹木等の位置	17
資料 14 熊本市における日本の重要湿地 500 の概要	20
資料 15 熊本市における日本の重要湿地 500 の位置	21
資料 16 熊本市における保護上重要な地域（植物群落）の概要	22
資料 17 熊本市における保護上重要な地域（ハビタット）の概要	23
資料 18 熊本市における保護上重要な地域の位置	24
資料 19 熊本市における特定植物群落の概要	25
資料 20 熊本市における特定植物群落の位置	26
資料 21 熊本市における生物多様性保全上重要な里地里山の位置	27
資料 22 熊本市における巨樹・巨木の位置	28

1. 熊本市の自然環境

① 水域（河川・湖沼・ため池・干潟）

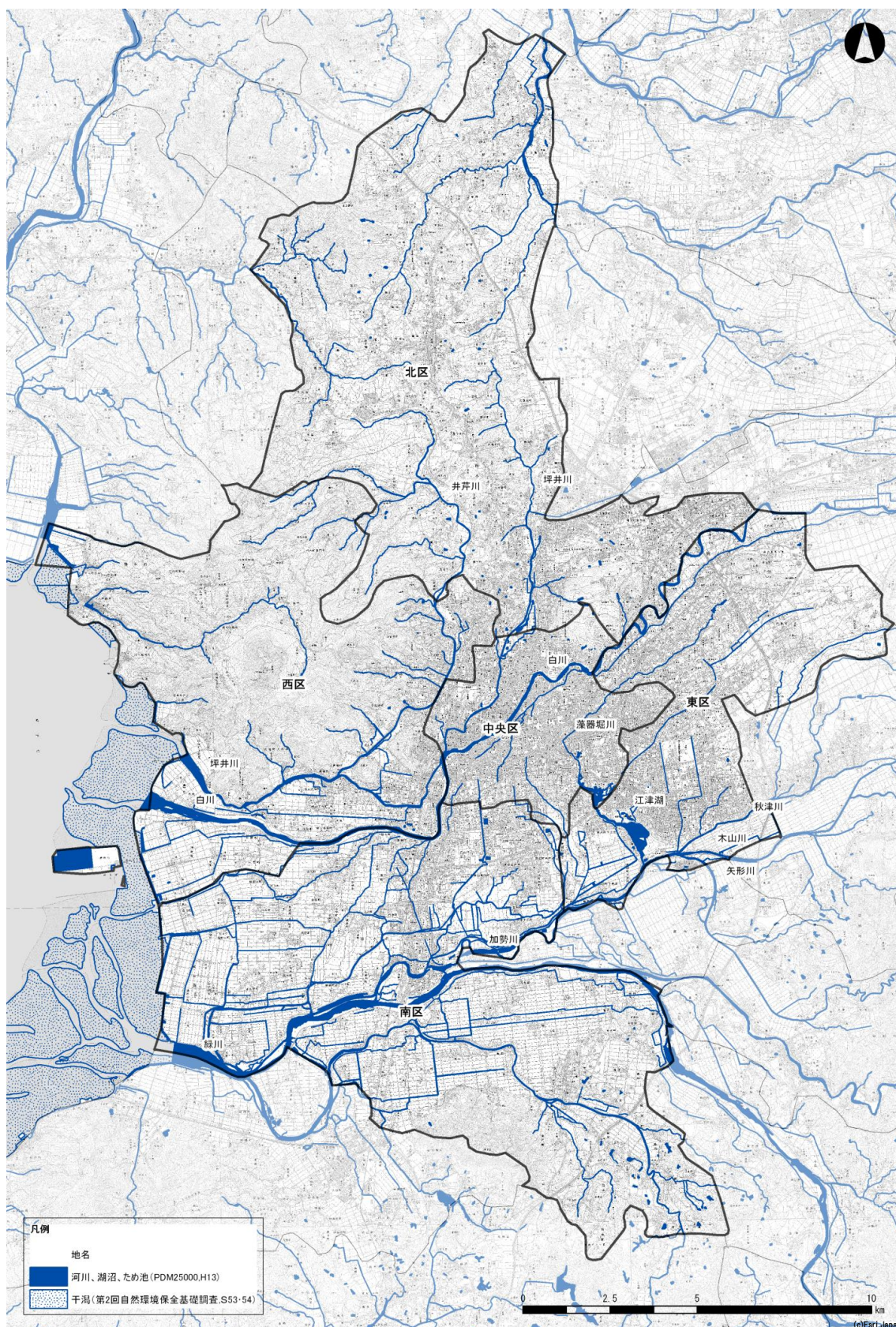
- ・ 熊本市の河川・湖沼・ため池・干潟の位置を資料 1 に示します。
- ・ 熊本市においては、北から河内川、坪井川、白川、緑川が有明海に注いでいます。坪井川には井芹川、緑川には加勢川や秋津川などの支流が流れ込み、加勢川の上流は江津湖となっています。これらの河川は、市内に広がる農業用の水路に水を供給しています。
- ・ ため池は、主に南側に多く分布しています。近年は農業用水としてため池が利用されなくなったことにより、ため池の遷移が進行したり、開発によりなくなってしまう場所もあります。
- ・ 干潟は、坪井川、白川の河口から緑川の河口にかけて広く分布しています。

② 標高区分

- ・ 熊本市の標高区分を資料 2 に示します。
- ・ 熊本市の西側には金峰山（665.2m）、二ノ岳（685.5m）、三ノ岳（681.5m）をはじめとする山地があり、比較的標高が高い地域となっています。北部から東部は、主に阿蘇の火砕流堆積物からなる台地が広がり、標高 60～100m 程度となっています。中央部から南部の白川・緑川流域においては、標高 20m 以下の熊本平野が広がっています。

③ 各区の地形及び植生の特徴

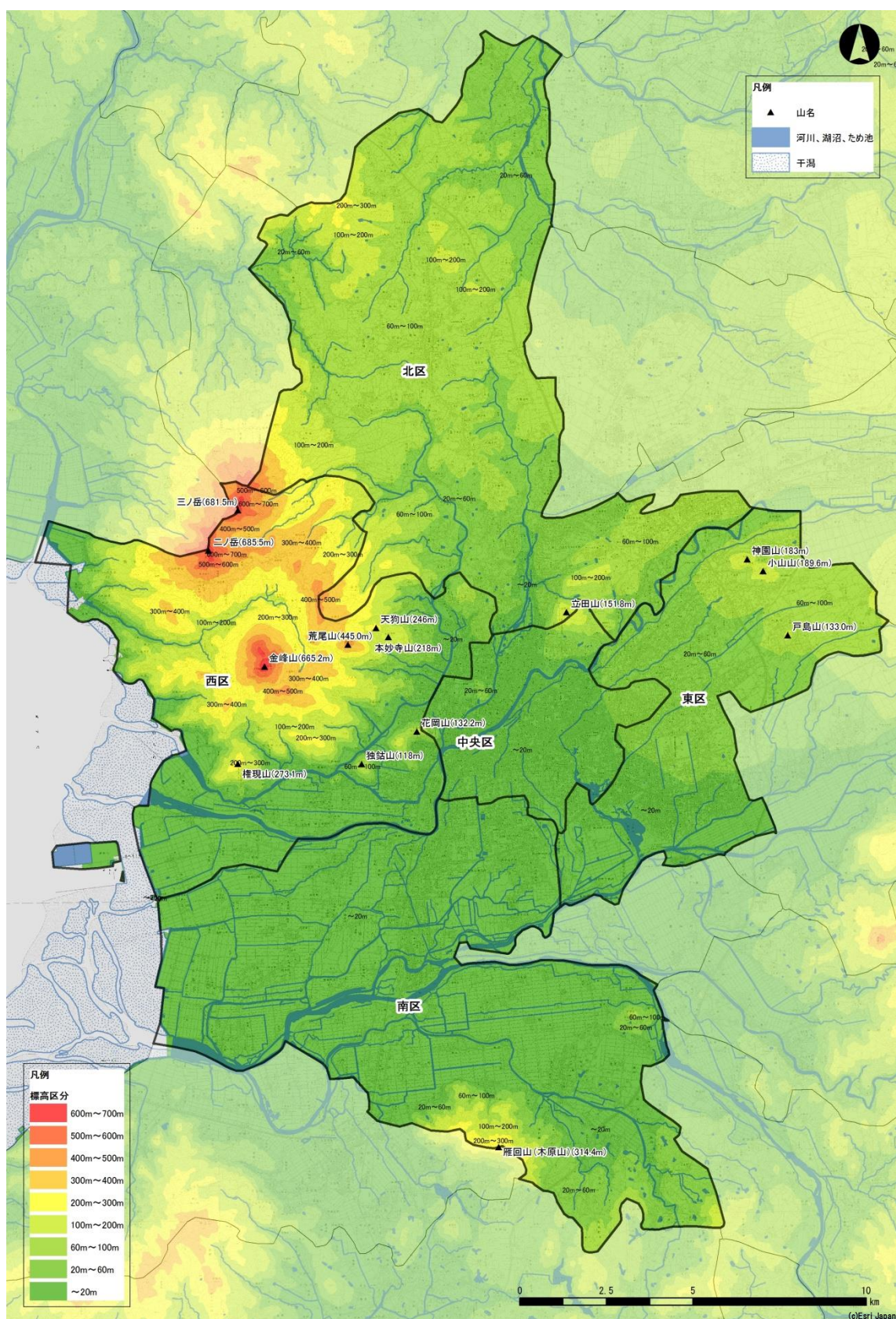
- ・ 各区の地形の面積を資料 3、植生の面積を資料 4 に示します。
- ・ 中央区は台地の端から低地に位置し、二次林や人工林、耕作地が少なく、市街地等が大部分を占めています。東区は大部分が台地で、中央区に次いで市街地等が占める割合が大きい一方で、水田や畑地等も広がっています。西区は金峰山系の山地が大部分を占め、白川河口域には低地もあります。山地を中心に、二次林や人工林、果樹園が広く分布しています。低地は水田や市街地となっています。南区は大部分が低地となっており、広大な水田が広がっています。北区は大部分が台地で、山地もあります。北区の台地は、谷が入り組んだ複雑な地形になっていて、二次林や人工林、竹林、水田、畑地がモザイク状に分布し、様々なタイプの植生がバランスよく広がっています。



資料 1 熊本市の水域（河川・湖沼・ため池・干潟）

・出典

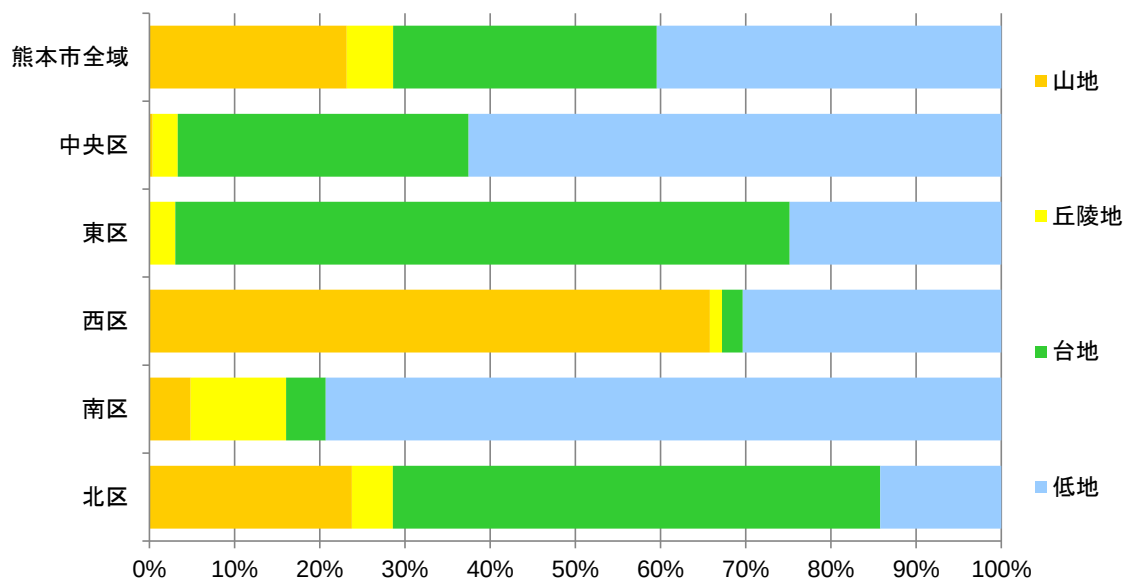
市町村界：「全国市区町村界データ」(Esri Japan)、干潟：「第5回自然環境保全基礎調査植生調査（干潟調査）」(環境省)、河川、湖沼、ため池：「熊本県環境特性情報データベース（第2版）」(熊本県)、背景図：「数値地図25000（地図画像）熊本」(国土地理院)



資料 2 熊本市の標高区分

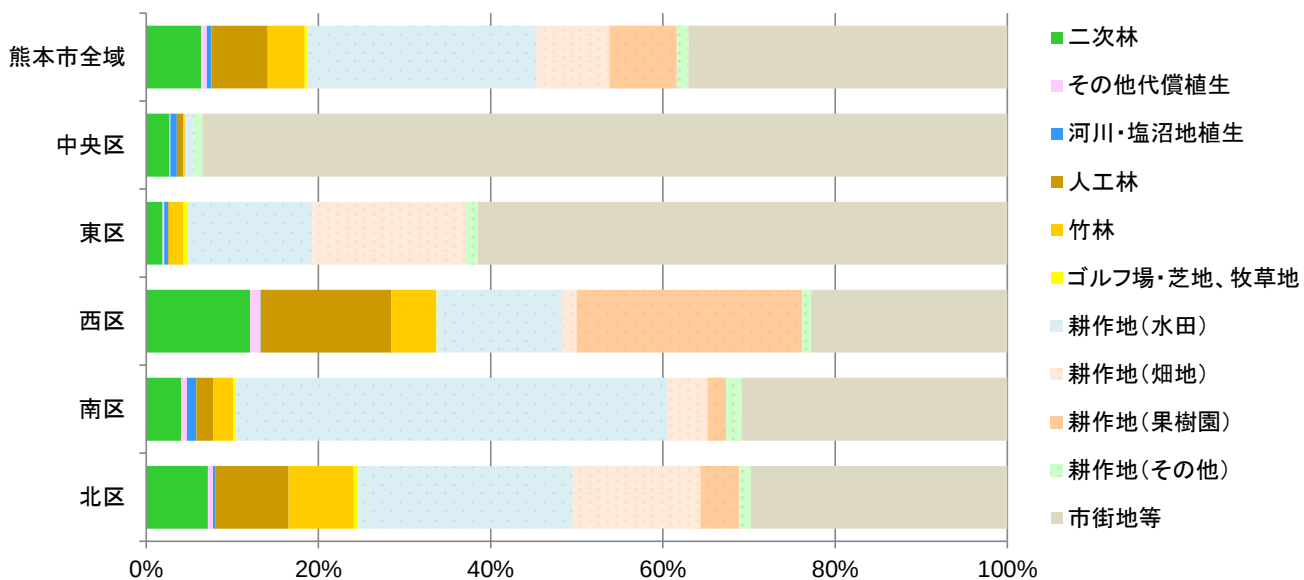
・出典

市町村界：「全国市区町村界データ」(Esri Japan)、干潟：「第 5 回自然環境保全基礎調査植生調査 (干潟調査)」(環境省)、
河川、湖沼、ため池：「熊本県環境特性情報データベース (第 2 版)」(熊本県)、標高区分：「熊本県環境特性情報データベース (第 2 版)」(熊本県)、
背景図：「数値地図 25000 (地図画像) 熊本」(国土地理院)



資料 3 各区の地形の特徴

・出典
地形分類：「国土調査 20 万分の 1 土地分類基本調査」（国土交通省）をもとに作成



資料 4 各区の植生の特徴

・出典
植生：「第 6、7 回自然環境保全基礎調査植生調査（植生調査）」（環境省）をもとに作成

2. 法令による指定地域等

① 自然公園区域（自然公園法／熊本県立自然公園条例）

- ・ 熊本市における自然公園区域の位置を資料 5 に示します。
- ・ 自然公園とは、すぐれた自然の風景地の保護や生物多様性の確保、適正な利用を図るために指定された区域です。自然公園区域は、特別地域や普通地域に区分され、区分に応じて、規制される行為の種類や規模が定められています。
- ・ 熊本市においては、金峰山とその周辺の山地、また飛地となって田原坂、立田山の一角が「金峰山県立自然公園」に指定されています。

② 鳥獣保護区（鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律）

- ・ 熊本市における鳥獣保護区の位置を資料 6 に示します。
- ・ 鳥獣保護区とは、狩猟鳥獣の捕獲等を制限することで、その生存を確保するとともに、多様な鳥獣の生育環境の保全等により、鳥獣の保護を図ることを目的として指定された区域です。
- ・ 熊本市においては「立田山鳥獣保護区」「金峰山鳥獣保護区」「託麻三山鳥獣保護区」「松尾西小学校鳥獣保護区」「江津鳥獣保護区」「熊本港鳥獣保護区」「宇城鳥獣保護区」の 7 箇所が県指定の鳥獣保護区に設定されています。国指定の鳥獣保護区は設定されていません。

③ 風致地区（都市計画法）

- ・ 熊本市における風致地区の位置を資料 7 に示します。
- ・ 風致地区とは、水や緑などの良好な自然的な景観（都市の風致）を維持するために必要な地区として指定され、建造物の高さや色彩、樹木の伐採などに規制がかけられている区域です。
- ・ 熊本市においては「八景水谷」「立田山」「水前寺」「江津湖」「本妙寺」「花岡山・万日山」「千金甲」の 7 箇所が風致地区に指定されています。

④ 保安林、保護林等（森林法）

- ・ 熊本市における国有林、地域森林計画対象民有林及び保安林、保護林の位置を資料 8 に示します。
- ・ 国有林とは、国が森林所有者である森林及び国有林野の管理経営に関する法律の規定による分収林で、国有林以外の森林を民有林といいます。国有林については全国森林計画、民有林については地域森林計画によって、対象となる森林の区域や森林の整備、保全に関する基本的な事項などが定められています。
- ・ 熊本市においては、金峰山系、田原坂、雁回山は国有林があり、国有林の周囲と立田山は地域森林計画対象民有林となっています。

- ・ 保安林とは、水源のかん養や土砂の崩壊、生活環境の保全など、特定の共益目的を達成するために指定されている森林で、それぞれの目的に沿った森林機能を確保するため、立木の伐採や土地の形質の変更等が規制されている森林です。
- ・ 熊本市においては、金峰山系や雁回山、立田山、金比羅山に、土砂の流出、崩壊の防止や保健、衛生などへの貢献を目的とした保安林が設定されています。
- ・ 保護林とは、原生的な森林生態系の維持、動植物の保護、遺伝子資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に資することを目的としている国有林です。
- ・ 金峰山の東斜面には「金峰山植物群落保護林」が設定されています。この保護林は、熊本県内で僅かに現存する藩政時代の造林地として、スギ、ヒノキ、サワラの老齢林を保護し、歴史や植物群落の考察をはじめとする学術研究等に資することを目的としています。林齢は 170 年生以上で、旧藩時代に植えられたスギ、ヒノキの老齢大径木を中心とする林内には、薬用植物として導入されたものが野生化したテンダイウヤクという植物も生育しています。

⑤ 天然記念物（文化財保護法／熊本県文化財保護条例／熊本市文化財保護条例）

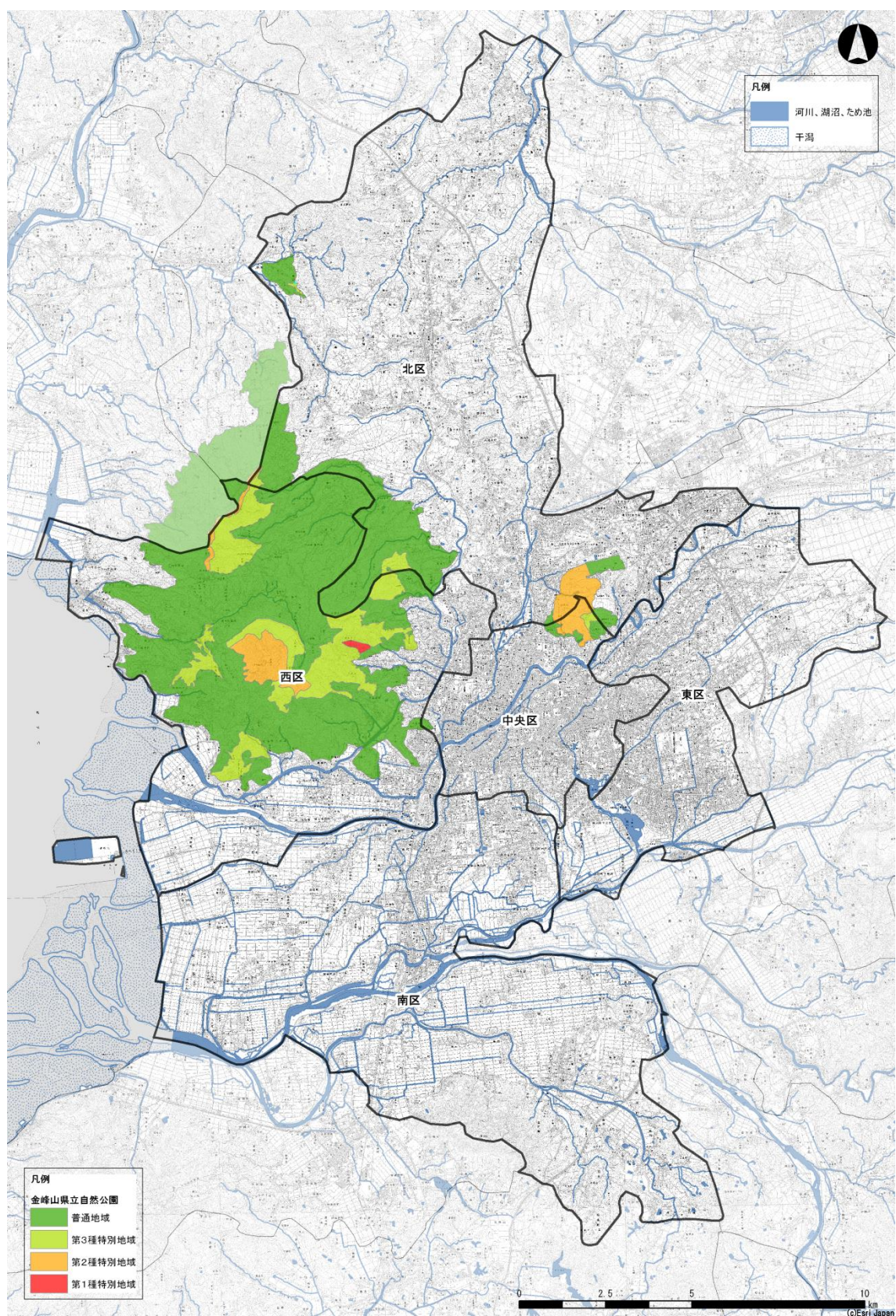
- ・ 熊本市における天然記念物の一覧を資料 9、主な天然記念物の解説を資料 10、天然記念物の位置を資料 11 に示します。
- ・ 天然記念物とは、法律または条例により指定されて保護が図られている、学術上価値の高い動物（生息地や繁殖地等を含む）や植物（自生地を含む）、地質鉱物です。
- ・ 熊本市においては、国指定の天然記念物としては「藤崎台のクスノキ群」「スイゼンジノリ発生地」「立田山ヤエクチナシ自生地」「下田のイチョウ」の 4 箇所が指定されています。県指定の天然記念物は「寂心さんの楠」「滴水のイチョウ」の 2 箇所が指定されています。市指定の天然記念物は「天社宮の大クスノキ」「旧代継宮跡大クスノキ」「釜尾天神のイチイガシ」「河内晩柑原木」「徳王の桜」「宮原菅原神社のイチイガシ」の 6 箇所が指定されています。

⑥ 環境保護地区（熊本市緑地の保全及び緑化の推進に関する条例）

- ・ 熊本市における環境保護地区の位置を資料 12 に示します。
- ・ 環境保護地区とは、野生生物の生息地及びその生育環境を保全する必要がある地域又は歴史的及び文化的遺産と一体となった地域で緑又は森その他の自然が残存するもの、河川、湖沼、湧水池その他の水辺景観が優れている地域、美観風致が優れている緑地を形成している地域、その他自然環境を保護する必要がある地域として指定され、建造物等の新築や増築、土地の形質の変更、樹木の伐採などに規制がかけられている区域です。
- ・ 熊本市の環境保護地区は 14 箇所が指定されています。

⑦ 保存樹木等（熊本市緑地の保全及び緑化の推進に関する条例）

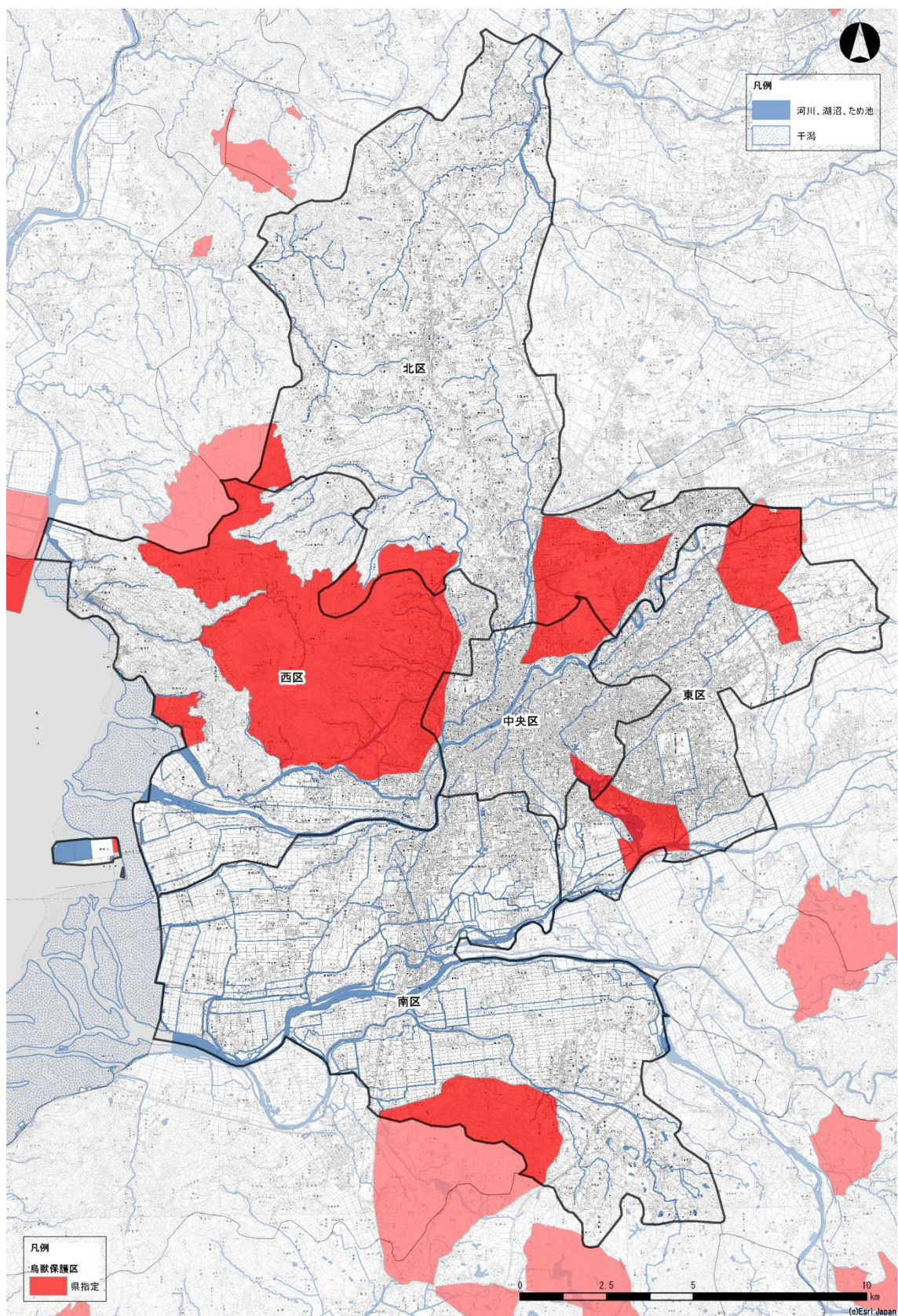
- ・ 熊本市における保存樹木等の位置を資料 13 に示します。
- ・ 保存樹木等とは、良好な自然環境の確保又は美観風致を維持するために指定され、伐採や譲渡が規制されている樹木や樹林です。
- ・ 熊本市の保存樹木等は 257 箇所が指定されています。所在地の内訳は社寺が 160 箇所と多くを占め、個人が 62 箇所、その他が 35 箇所となっています。樹種はイチョウ、クスノキが多くを占め、その他エノキ、ムクノキ、イヌマキ、モッコク、タブノキ等となっています。



資料 5 熊本市における自然公園区域の位置

・出典

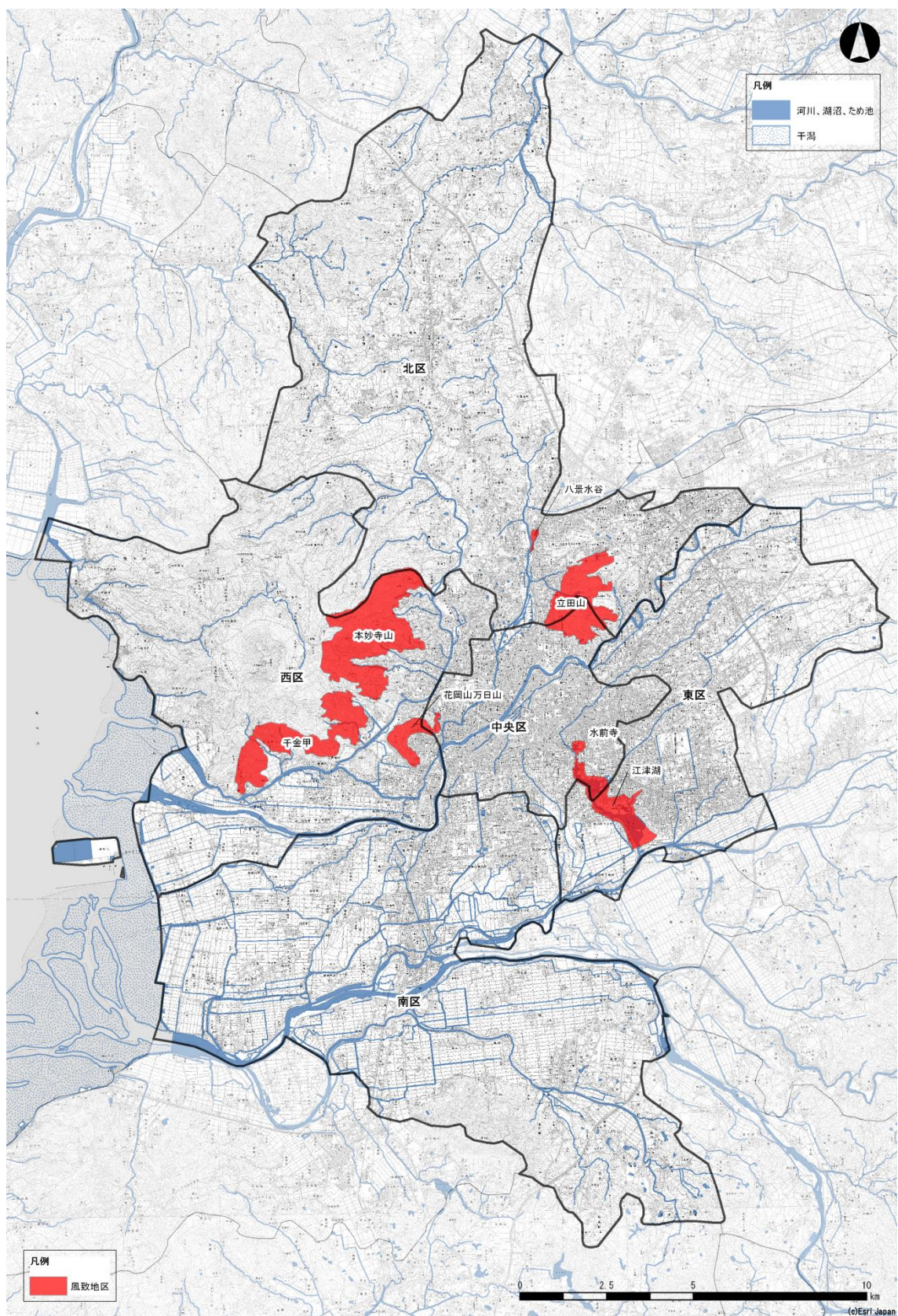
市町村界：「全国市区町村界データ」(Esri Japan)、干潟：「第5回自然環境保全基礎調査植生調査(干潟調査)」(環境省)、河川、湖沼、ため池：「熊本県環境特性情報データベース(第2版)」(熊本県)、自然公園区域：「熊本県環境特性情報データベース(第2版)」(熊本県)、背景図：「数値地図25000(地図画像)熊本」(国土地理院)



資料 6 熊本市における鳥獣保護区の位置

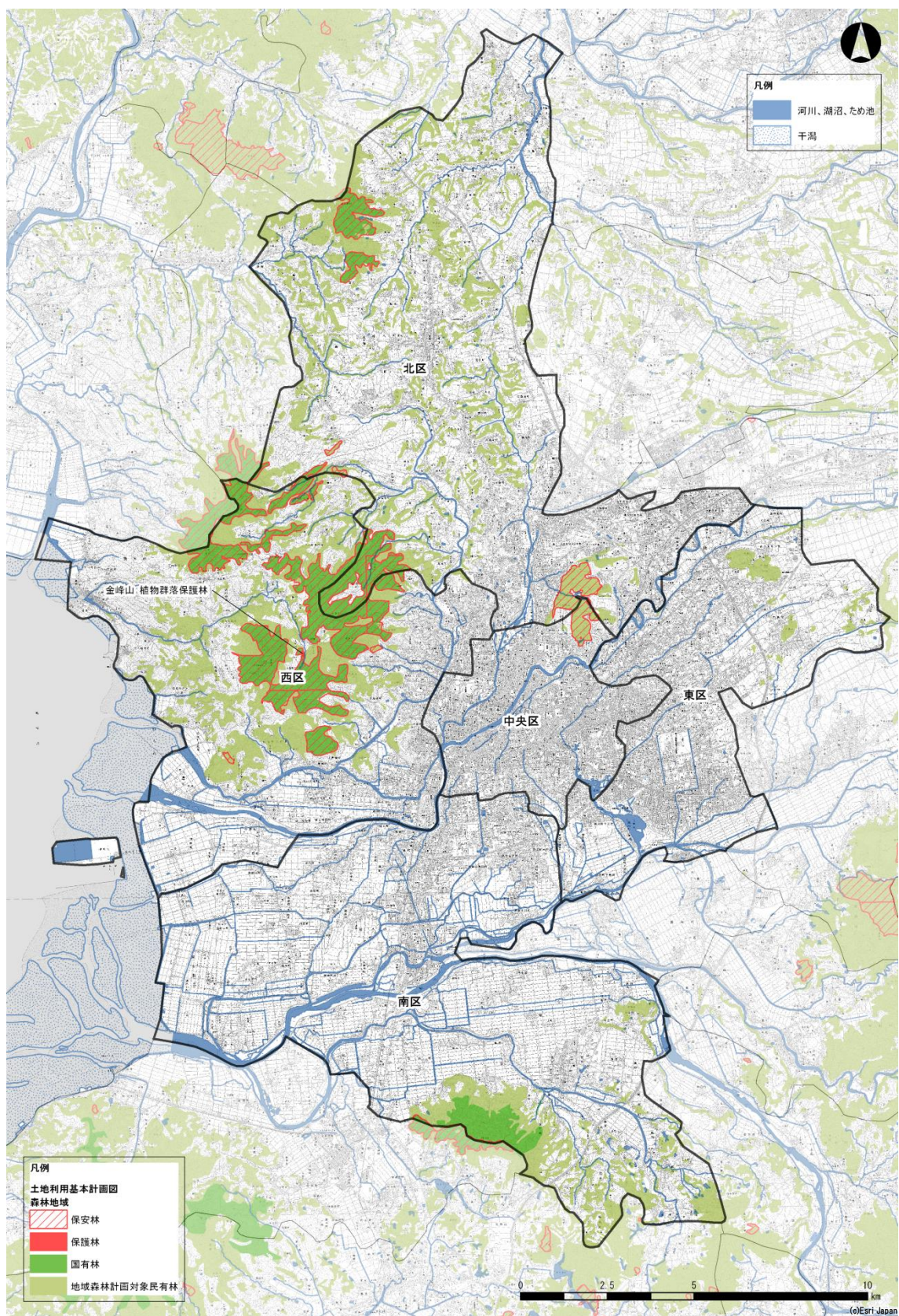
・出典

市町村界：「全国市区町村界データ」(Esri Japan)、干潟：「第5回自然環境保全基礎調査植生調査(干潟調査)」(環境省)、
 河川、湖沼、ため池：「熊本県環境特性情報データベース(第2版)」(熊本県)、
 鳥獣保護区：「国土数値情報鳥獣保護区データ」(国土交通省)、「平成27年度鳥獣保護区等地図(ハンターマップ)の掲載について※1」(熊本県)
 ※1：http://www.pref.kumamoto.jp/kiji_13315.html
 背景図：「数値地図25000(地図画像)熊本」(国土地理院)



資料 7 熊本市における風致地区の位置

・出典
 市町村界：「全国市区町村界データ」(Esri Japan)、干潟：「第5回自然環境保全基礎調査植生調査(干潟調査)」(環境省)、
 河川、湖沼、ため池：「熊本県環境特性情報データベース(第2版)」(熊本県)、風致地区：「熊本県環境特性情報データベース(第2版)」(熊本県)、
 背景図：「数値地図25000(地図画像)熊本」(国土地理院)



資料 8 熊本市における保安林等の位置

・出典

市町村界：「全国市区町村界データ」(Esri Japan)、干潟：「第5回自然環境保全基礎調査植生調査(干潟調査)」(環境省)、
河川、湖沼、ため池：「熊本県環境特性情報データベース(第2版)」(熊本県)、
保安林、国有林、地域森林計画対象民有林：「熊本県環境特性情報データベース(第2版)」(熊本県)、
保護林：植物群落保護林：「白川・菊池川森林計画区森林位置図」(九州森林管理局)をもとに作成した。
背景図：「数値地図25000(地図画像)熊本」(国土地理院)

資料 9 熊本市における天然記念物一覧

指定	指 定 区 分			名 称	指 定 年 月 日	所 在 地
国	記念物	動植物 ・地質鉱物	天然記念物	藤崎台のクスノキ群	大正 13 年 12 月 9 日	宮内
				スイゼンジノリ発生地	大正 13 年 12 月 9 日	神水町地先上 江津湖
				立田山ヤエクチナシ自生地	昭和 4 年 4 月 2 日	黒髪 4 丁目
				下田のイチョウ	昭和 12 年 12 月 21 日	城南町隈庄
				矮鶏	昭和 16 年 8 月 1 日	熊本市内各地
			特別天然記念物	タンチョウ	昭和 27 年 3 月 2 日	健軍 5 丁目(熊本動植物園)
県	記念物	動植物 ・地質鉱物	天然記念物	寂心さんの樟	昭和 49 年 5 月 8 日	北迫町
				滴水のイチョウ	昭和 53 年 6 月 17 日	植木町滴水 国有地
市	記念物	動植物 ・地質鉱物	天然記念物	天社宮の大クスノキ	昭和 43 年 8 月 13 日	上高橋町(高橋東神社)
				旧代継宮跡大クスノキ	昭和 43 年 8 月 13 日	花畑町(花畑公園)
				釜尾天神のイチイガシ	平成 4 年 3 月 26 日	釜尾町
				河内晩柑原木	平成 4 年 3 月 26 日	市内
				徳王の桜	平成 7 年 4 月 28 日	徳王町
				宮原菅原神社のイチイガシ	平成 23 年 3 月 28 日	植木町

・出典：

「熊本市の指定文化財等※1」（熊本市）※1：http://www.city.kumamoto.jp/hpKiji/pub/detail.aspx?c_id=5&id=5889&class_set_id=2&class_id=186

資料 10 熊本市における主な天然記念物の解説

(1/2)

名称	解説
藤崎台のクスノキ群	藤崎台には明治 10 年まで藤崎八幡宮が鎮座されていた。藤崎宮は承平 3 年 (933) の勧請と伝えられており、以来 950 年近くこの台地に社殿があったため、その社叢として 7 本のクスの大木が残ってきた。大きなものは根廻り 31m、目通り幹囲り 12m、高さ 28m にもおよび樹齢推定 1000 年、小さなものでも目通り幹囲り 7 m、高さ 20m で推定樹齢 400 年とみられている。西南の役に社殿は悉く焼失し、以後陸軍用地となり、昭和 35 年に県営野球場となったが、このクスノキ群は保護柵が設けられて今日に及んでいる。
スイゼンジノリ発生地	水前寺成趣園の湧水は、水前寺川を経て上江津湖に流入するが、この水域に自生する茶褐色で不定形の藍藻がスイゼンジノリである。明治 5 年 (1872) にオランダの植物学者スーリングが発表してはじめて世界に紹介された。九州の一部に自生する日本特産の藍藻類で、成趣園の池で発見されたものである。生育地は温度変化が少なく年平均水温が 18 度ぐらいの清冽な湧き水で、水深も 50 c m 以下、流速も遅く、水底は砂礫が多く、マコモ・セキショウなどの水草が程よく繁茂しているようなところでなければならない。昭和 28 年の熊本大水害以来、江津湖の環境変化が著しく、現在では特別保護区の中でようやく生育している。
立田山ヤエクチナシ自生地	ヤエクチナシは、旧第五高等学校教授浅井東一が大正 9 年 (1920) に発見したもので、立田山に無数にある普通の一重のヤエクチナシの中に 20 株ほどの八重咲きがあり、野生のクチナシが自然に八重に変る現象が珍しいというので指定された。葉は長楕円形で長さ約 11 c m、幅約 3 c m、花卉は三重となり交互に配列し、花弁数は 13 枚から 22 枚で、18 枚が普通である。花径は 6 c m ～ 9 c m。第二次大戦後、樹木の伐採や盗掘などにより次第に姿を消し、一時絶滅が伝えられたが、昭和 44 年にその存在を再確認して保護されている。立田自然公園内に移植されたものがあり、6 月ごろ花を咲かせて観光客を楽しませている。
下田のイチョウ	城南町の中央部、下田家の屋敷内にあることからこの名がある。 県下最大級を誇る大イチョウで根回り 10.2m、高さ 22.0m、目通り 9.0m、枝張り東西 14.8m、南北 15.2m を計る。地上 1.5m の高さから大きな幹が分かれており、南の幹周り 5.9m、北の幹周り 6.4m で幹の途中からこぶが垂れ下がっている。 天正 15 年 4 月 18 日 (1587) には隈庄城に宿泊した豊臣秀吉が翌朝見物に訪れたという記録が残っている。 所在地 城南町隈庄字居屋敷 年代 樹齢 700 年
寂心さんの樟	北迫の集落の北側にある。幹囲り 13.5m、樹高約 29m、枝張りは東西 47m、南北 49m、南西方向に伸びる枝が最も長く中心から 29m もある。樹根は蛸の足のよう に地上に這いまわり、樹勢も盛んである。クスノキの多い熊本県下でも最大級の巨木である。樹の南側の幹に墓石らしいものが 1 基まきこまれている。これが鹿子木寂心の墓と伝えられるもので、樹の呼称もこれに由来する。鹿子木寂心は、名は親員、三河守と称し、入道して厳松軒寂心と号した。旧北部町の楠原城に本拠をおき、飽田、託磨、山本、玉名郡内の 560 町を領したという。後に隈本城（古城、現在の第一高校の場所）を築き、そこを本拠とした。
滴水のイチョウ	幹回りは脇芽も含めて 14m、高さ 42m の雄株である。 龍雲庵という寺跡で、現在も樹下に一字の阿弥陀堂がある。 滴水地区では毎年 3 月 26 日に「いちょうの木さん祭り」が行われている。 白蛇の伝説や、夜間に拍子木が鳴った伝説も残っている。 秋に木の葉の色づき具合を見て、麦播種の目安にしていたとも云われている。

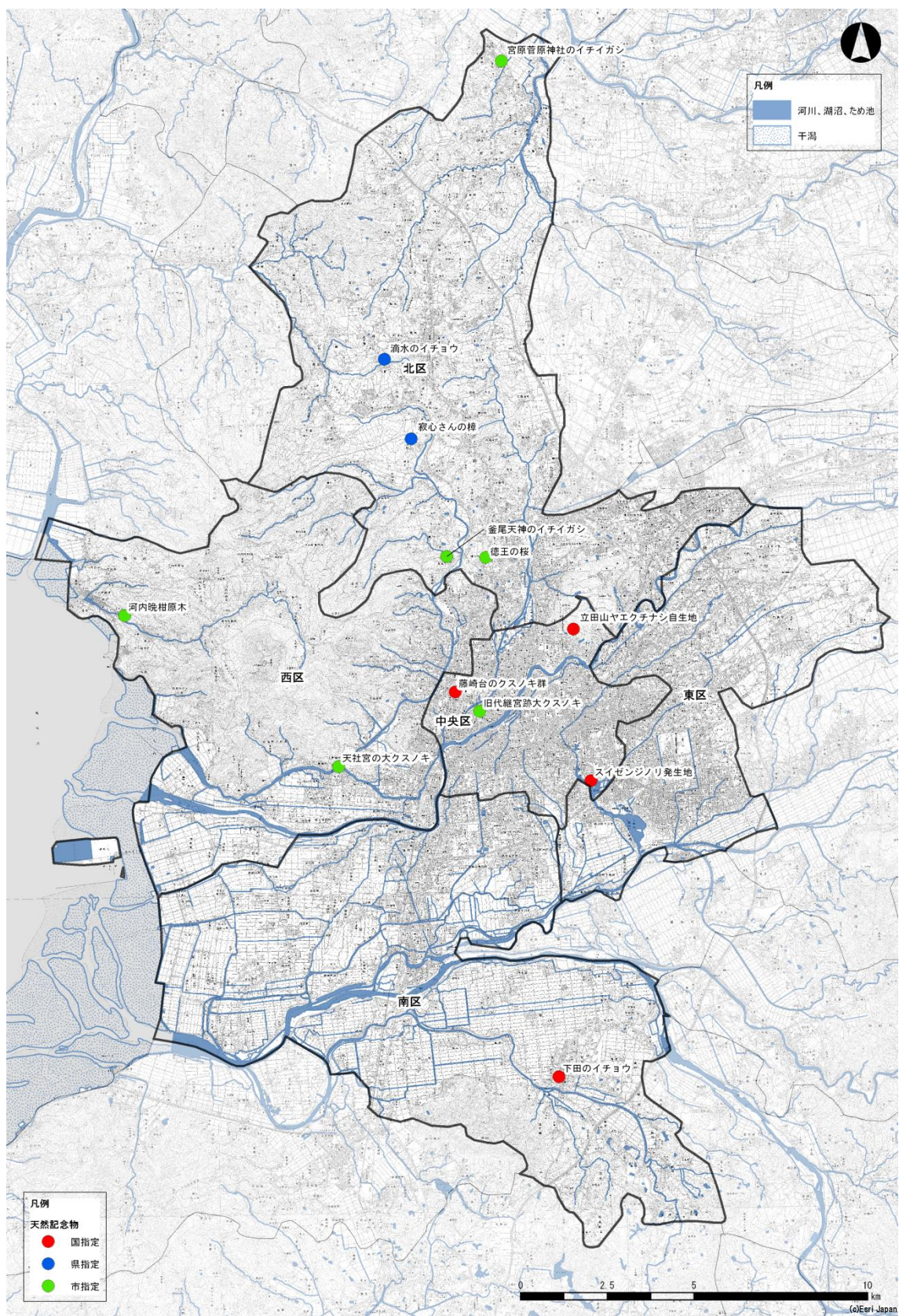
資料 10 熊本市における主な天然記念物の解説

(2/2)

名称	解説
天社宮の大クスノキ	推定 1000 年以上を経た大クスノキで、根廻り幹囲り 23.0m、目通り幹囲り 12.0m、地上 4m のところでも幹囲り 9.5m で、樹高は 22.0m、枝張り は東西 23m、南北 26m である。地上 6m のところで二股に分れ、一幹は東北、他は西南に向いている。本樹は地上 6m のところまでは壮大な直幹で、県内の大クスノキの中でも屈指のものであるが、惜しいことに大枝の多くが途中で切落されているため、樹型を損じ、樹勢も盛んであるとは言いがたい。高橋東神社は古く天社大明神と称せられ、地元では今でも天社さんと呼び、奈良時代の肥後国司道首名を祭る神社である。この樹は本来その御神体であったと考えられる。
旧代継宮跡大クスノキ	現花畑公園は、古く代継神社の境内の一部であった。同社は応和元年（960）の創建と伝えられ、本来紀氏の祖先神として奉祀されたものと考えられる。その後加藤清正の慶長 7 年（1602）、花畑邸創設のために神社は白川左岸に移転させられ、神木は邸内に取り入れられた。当初は 4 本の大木があったので四ツ木神社と称していたという。花畑邸は細川氏に引継がれ、明治 4 年鎮台の用地となったが、大正 13 年に更地となり、この神木を中心とする地域は花畑公園となって現在に至っている。樹高 29m、目通幹囲り 7m、推定樹齢 600～700 年である。昭和 48 年枯死しかけたが市の努力によって甦った。
釜尾天神のイチイガシ	イチイガシはブナ科の常緑大喬木で、大きいものは樹高が 40m に達するものもある。漢字では「石樹」と書き、材が堅く舟の櫂や櫓の柄に使われるため「楫樹」とも書かれる。樹果は楕円形で長さ 2cm、通称ドングリと呼ばれるものの一種だが食用となる。このイチイガシのある場所は、現在釜尾の村中に鎮座する菅原神社（天神社）の旧所在地であるという。その名残で、この木は「天神木」ともよばれる。古老の話では神社が台地上に移った後も樹下にお神酒が供えられていたらしいが、今では途絶えてしまった。樹高は 21.5m、幹周は 6.02m（h1.3m）、根廻りは 11.0m ある。
徳王の桜	エドヒガンは、バラ科サクラ属に属し、本州・四国・九州と朝鮮半島の低山地帯に分布し、寿命が長いことから、まれに直径 1m 以上、高さ 20m になる落葉高木で、人里の木として親しまれるものが多い。エドヒガンは「江戸」すなわち東京周辺で栽培され、彼岸の頃に淡紅色の花が咲き「タネまき桜」（この花が咲くのを見て種もみを蒔く時期としていた）の呼称を持つようなことからこの名がついたと言われる。目通幹回り 3.2m、樹高 18.5m、枝張り 12m でエドヒガンとしては県内最大級である。
宮原菅原神社のイチイガシ	イチイガシはブナ科コナラ属の常緑高木である。イチイガシは地味が良いところに生息するが、そのような場所は開発対象となり、山地でも大木が残っているところは限られてきている。当イチイガシは平地にあり、国道 3 号線からも眺望できる際だった巨樹で根元周囲 8.70m、樹齢 300 年以上と推定される。宮原菅原神社の神木として長く地域住民に親しまれている。 民間伝承：幹には白蛇が住み時折顔を出すといわれ、あがめられている。また、木に登るとホロセができるといわれ、この木に登るものはいないといわれている。

・出典：

「熊本市の指定文化財等※1」（熊本市）※1：http://www.city.kumamoto.jp/hpKiji/pub/detail.aspx?c_id=5&id=5889&class_set_id=2&class_id=186



資料 11 熊本市における天然記念物の位置

・出典

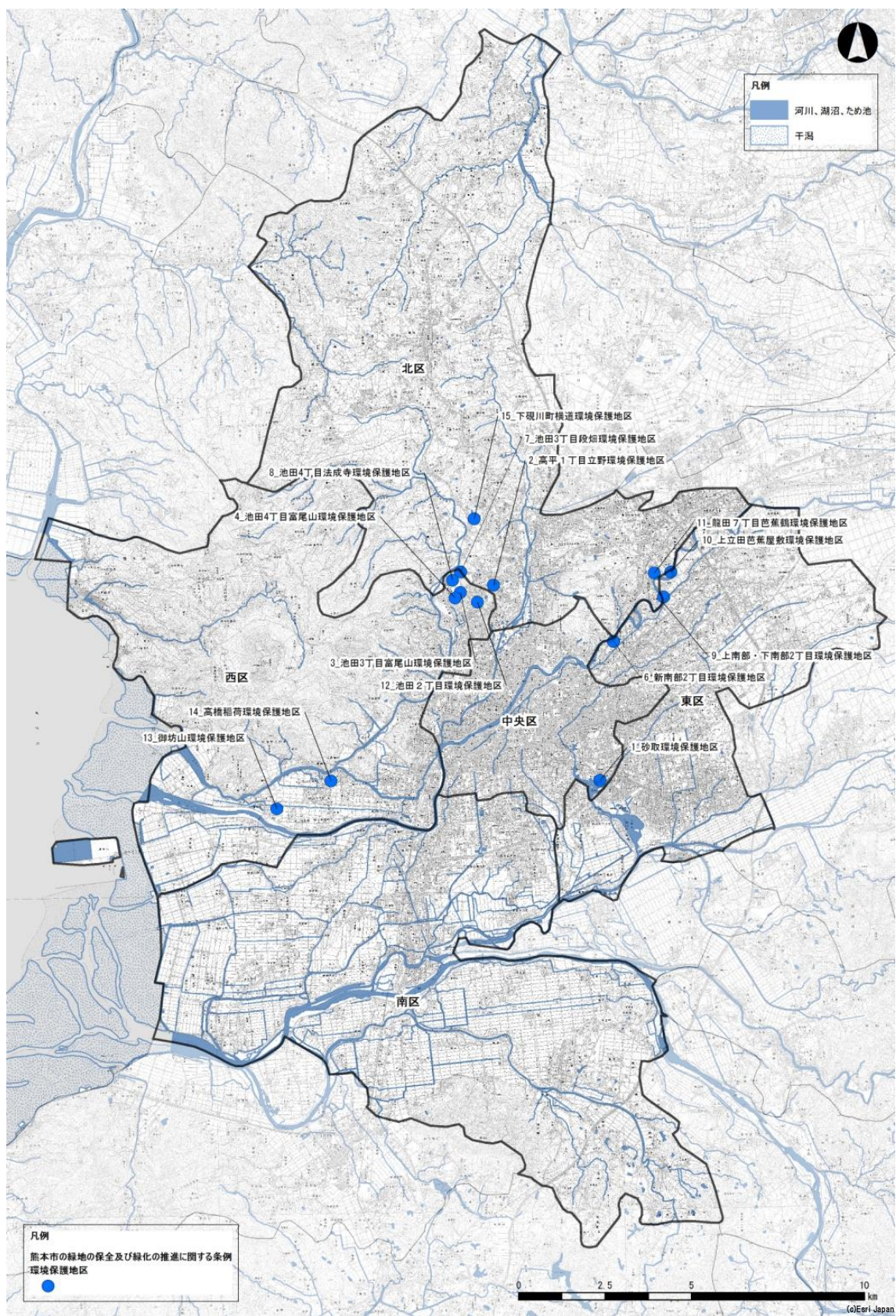
市町村界：「全国市区町村界データ」(Esri Japan)、干潟：「第5回自然環境保全基礎調査植生調査(干潟調査)」(環境省)、

河川、湖沼、ため池：「熊本県環境特性情報データベース(第2版)」(熊本県)、

天然記念物：「熊本市の文化財等※1」(熊本市)をもとに作成した。

※1：http://www.city.kumamoto.jp/hpKiji/pub/detail.aspx?c_id=5&id=5889&class_set_id=3&class_id=622

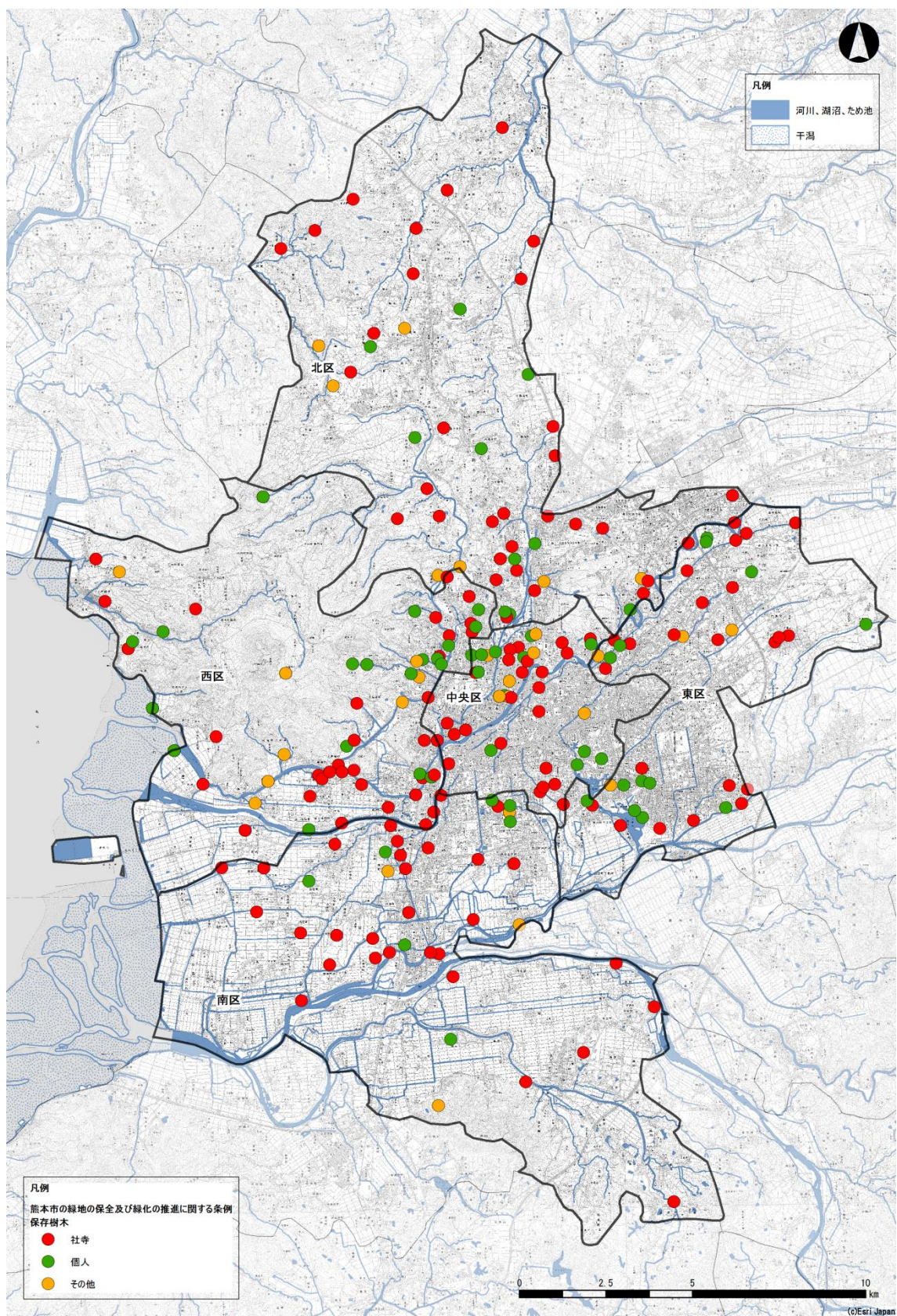
背景図：「数値地図25000(地図画像)熊本」(国土地理院)



資料 12 熊本市における環境保護地区の位置

・出典

市町村界：「全国市区町村界データ」(Esri Japan)、干潟：「第5回自然環境保全基礎調査植生調査(干潟調査)」(環境省)、
河川、湖沼、ため池：「熊本県環境特性情報データベース(第2版)」(熊本県)、
環境保護地区：「環境保護地区指定位置図」(熊本市)をもとに作成した。
背景図：「数値地図25000(地図画像)熊本」(国土地理院)



資料 13 熊本市における保存樹木等の位置

・出典

市町村界：「全国市区町村界データ」(Esri Japan)、干潟：「第5回自然環境保全基礎調査植生調査(干潟調査)」(環境省)、
河川、湖沼、ため池：「熊本県環境特性情報データベース(第2版)」(熊本県)、
保存樹木等：保存樹木等の所在データ(住所)から、「GeocodingTools&Utilities 位置参照技術を用いたツールとユーティリティ※1」(東京大学空間情報
科学研究センター)を用いて取得した位置情報をもとに作成した。※1：<http://newspat.csis.u-tokyo.ac.jp/geocode/>
背景図：「数値地図25000(地図画像)熊本」(国土地理院)

3. 熊本市の重要な地域等

① 日本の重要湿地 500

- ・ 熊本市における日本の重要湿地 500 の概要を資料 14、位置を資料 15 に示します。
- ・ 日本の重要湿地 500 とは、環境省が湿地保全施策の基礎資料を得るため、生物多様性保全の観点から選定した 500 箇所の重要な湿地です。選定の基準は資料 14 に示すとおりです。
- ・ 熊本市においては、有明海、江津湖・上江津湖水系、菊池川・白川・緑川河口の 3 箇所の湿地が選定されています。

② 保護上重要な地域

- ・ 熊本県のレッドリスト（レッドリストくまもと 2014）において選定されている保護上重要な地域のうち、熊本市に位置するものの概要を資料 16、資料 17、位置を資料 18 に示します。
- ・ 保護上重要な地域とは、生物多様性の保全を考えるうえで、種の集合体及び現実の生息生育実態の場としての植物群落や動物の生息地を保護することは非常に重要であることから、熊本県のレッドリストで選定されている保護上重要な植物群落と、動物の生息地（ハビタット）です。選定の理由はそれぞれ、資料 16、資料 17 に示すとおりです。
- ・ 熊本市においては、立田山のコジイ林、江津湖一帯の水湿生植物群落、緑川河口の水湿生植物群落、熊本市加勢川支流の 4 箇所の植物群落、天狗山洞窟のコウモリ類のハビタット、有明海のシギ・チドリ類等のハビタット、熊本市北西部干潟の海洋動物のハビタット、熊本市白川・緑川河口のハビタットの 4 箇所の動物のハビタットが選定されています。

③ 特定植物群落

- ・ 熊本市における特定植物群落の概要を資料 19、位置を資料 20 に示します。
- ・ 特定植物群落とは、環境省の自然環境保全基礎調査によって選定された、原生林、社寺林、郷土景観を代表するなど、学術上重要あるいは、保護を必要とする植物群落です。選定の基準は資料 19 に示すとおりです。
- ・ 熊本市においては、立田山のコジイ林、金峰山三ノ岳スダジイ林、金峰山のイチイガシ人工林が特定植物群落に選定されています。

④ 生物多様性保全上重要な里地里山（重要里地里山）

- ・ 熊本市における生物多様性保全上重要な里地里山の位置を資料 21 に示します。
- ・ 生物多様性保全上重要な里地里山とは、環境省が国土の生物多様性保全の観点から重要な地域を明らかにし、多様な主体による保全活用の取組が促進されることを目的として選定した 500 箇所の重要な里地里山です。
- ・ 選定基準は、「多様で優れた二次的自然環境を有する（基準 1）」「里地里山に特有で多様な野生動植物が生息・生育する（基準 2）」「生態系ネットワークの形成に寄与する（基準 3）」の 3 つで、このうち 2 つ以上の基準に該当することが選定条件となっています。
- ・ 熊本市においては、基準 1 と基準 2 に該当するとして、「柿原迫谷の里」が重要里地里山に選定されています。

⑤ 巨樹・巨木

- ・ 熊本市における巨樹・巨木の位置を資料 22 に示します。
- ・ ここで示した巨樹・巨木とは、環境省の自然環境保全基礎調査によって確認された、地上高 130 cm での幹回りが 300 cm 以上の樹木とその林です。
- ・ 熊本市における巨樹・巨木は、クスノキとイチョウが多く、クスノキは低地の河川沿い、イチョウは金峰山とその周辺に複数が分布しています。
- ・ その他の樹種としてはムクノキ、エノキ、モッコク、モミノキ、イヌマキ、アラカシ、カゴノキ、コジイ、ナナメノキ、コナラ、スギ等となっています。

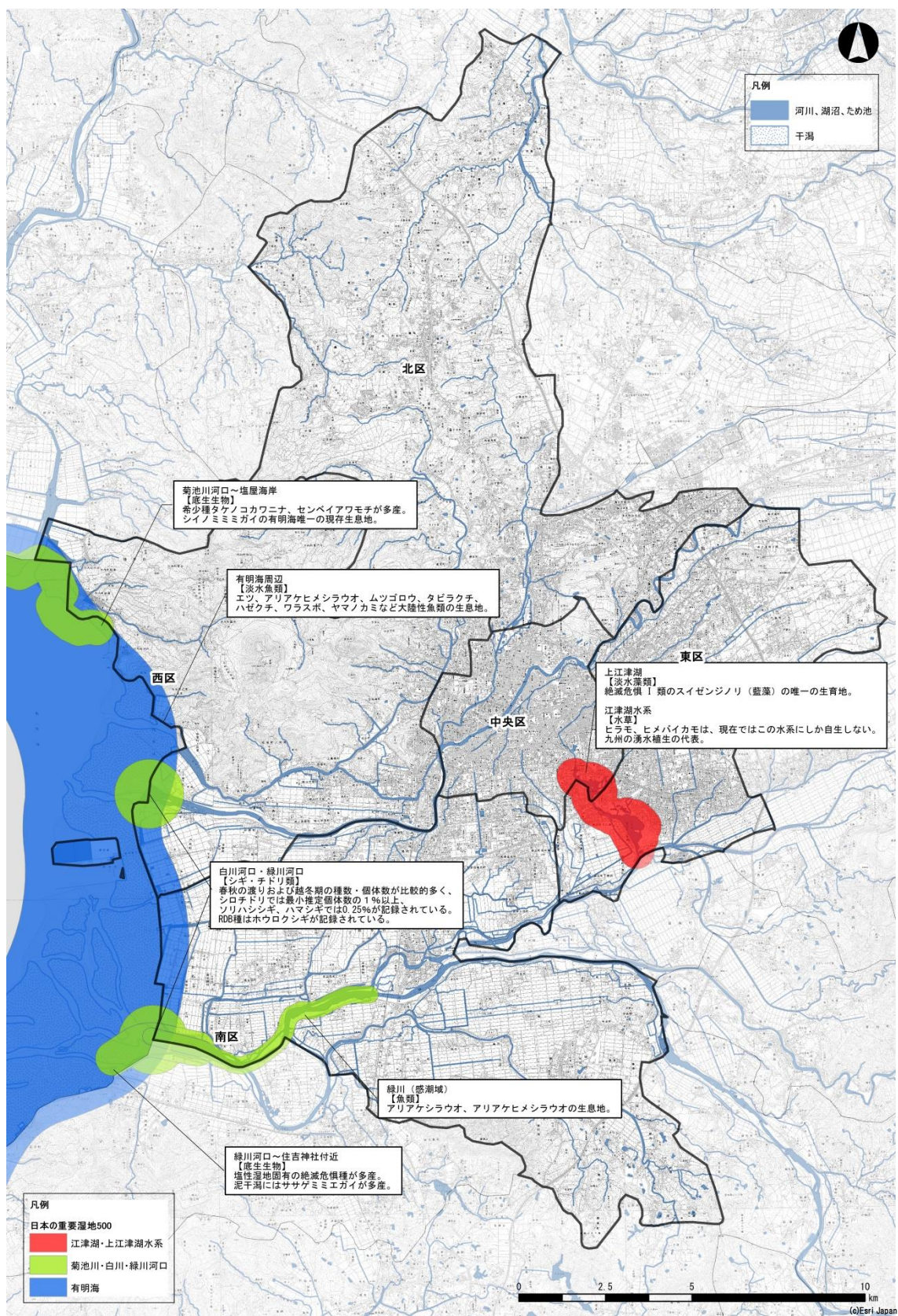
資料 14 熊本市における日本の重要湿地 500 の概要

湿地名	選定基準	湿地タイプ	生物群	生育・生息域	選定理由
有明海	1、2、3、4、5	干潟、河川、塩性湿地、浅海域	淡水魚類	有明海周辺	エツ、アリアケヒメシラウオ、ムツゴロウ、タビラクチ、ハゼクチ、ワラスボ、ヤマノカミなど大陸性魚類の生息地となっている。
江津湖・上江津湖水系	2	湖沼、湧水池	水草	江津湖水系	ヒラモ、ヒメバイカモは、現在ではこの水系にしか自生しない。九州の湧水植生の代表となっている。
			淡水藻類	上江津湖	絶滅危惧 I 類のスイズンシノリ（藍藻）の唯一の生育地。
菊池川・白川・緑川河口	2、4	河川、河口干潟のある河口域	シギ・チドリ類	白川河口・緑川河口	春秋の渡りおよび越冬期の種数・個体数が比較的多く、シロチドリでは最小推定個体数の 1 % 以上、ソリハシシギ、ハマシギでは 0.25 % が記録されている。RDB 種はホウロクシギが記録されている。
			淡水魚類	緑川（感潮域）	アリアケシラウオ、アリアケヒメシラウオの生息地となっている。
			底生動物	菊池川河口～塩屋海岸	希少種タケノコカワニナ、センベリアワモチが多産。シイノミミミガイの有明海唯一の現存生息地となっている。
			底生動物	緑川河口～住吉神社付近	塩性湿地固有の絶滅危惧種が多産している。泥干潟にはササゲミミエガイが多産している。

選定基準

- 1：湿原・塩性湿地、河川・湖沼、干潟・マングローブ林、藻場、サンゴ礁のうち、生物の生育・生息地として典型的または相当の規模の面積を有している場合
- 2：希少種、固有種等が生育・生息している場合
- 3：多様な生物相を有している場合
- 4：特定の種の個体群のうち、相当数の割合の個体数が生息する場合
- 5：生物の生活史の中で不可欠な地域（採餌場、産卵場等）である場合

・出典：
「日本の重要湿地 500※1」（環境省）※1：<http://www.sizenken.biodic.go.jp/wetland/>



資料 15 熊本市における日本の重要湿地 500 の位置

・出典

市町村界：「全国市区町村界データ」（Esri Japan）、干潟：「第5回自然環境保全基礎調査植生調査（干潟調査）」（環境省）、
河川、湖沼、ため池：「熊本県環境特性情報データベース（第2版）」（熊本県）、
日本の重要湿地 500：「日本の重要湿地 500※1」（環境省）をもとに作成した。※1：<http://www.sizenken.biodic.go.jp/wetland/>
背景図：「数値地図 25000（地図画像）熊本」（国土地理院）

資料 16 熊本市における保護上重要な地域（植物群落）の概要

項目	群落名	選定理由	カテゴリー	概要
単一群落	立田山のコジイ林	E	2	立田山の南側中腹には自然度の高いコジイ林が散在するが、泰勝寺跡の裏山に当たる部分は約 1.5ha で、極相に近い森林状態を示している。高木層は植被率 80～90%、高さ 20～23m に達して、コジイが優占するほか、アラカシ、ナナメノキ、クスノキ、カゴノキなどが混生している。亜高木層は植被率 40%、高さ 12m 程で、コジイやアラカシが優占し、他にカクレミノ、イヌビワ、ボロボロノキなどが混生する。低木層は植被率 30%、高さ 4m 程でコジイが優占するほか、クロキ、アラカシ、イヌビワ、カクレミノなどが生育している。草本層はよく発達して植被率 90%に達する部分もある。多くの部分でオオカグマが植被率 50%以上で優占し、コバノジュズネノキ、コジイなども多い。
複合群落	江津湖一帯の水湿生植物群落	B、D	4	江津湖は熊本市の東南部に位置し、加勢川の一部が拡大した膨張湖で、上江津湖と下江津湖に分かれる。上江津湖は国の天然記念物であるスイゼンジノリの自生地として知られており、一帯にはヒラモ、ヒメバйкаモ、ササバモ、ヤナギモ、エビモなどの沈水植物をはじめ、岸边にはヤマトミクリ、サンカクイ、カサスゲ、マコモなどの抽水植物が群落を作り、県内有数の水生植物の自生地となっている。下江津湖一帯には北方系の植物であるキタミソウが生育し、マコモ、ヨシやオギの群落が見られる。また、江津湖の下流部で合流する木山川と秋津川に囲まれた水田地帯には、キタミソウやオニバスが生育しており、川岸にはミズアオイなども生育する。
	緑川河口の水湿生植物群落	D	3	平木橋付近から緑川河口にかけて、河川中央部及び左右両岸にヨシを中心とした広大な混生群落が発達している。また、左岸側からは浜戸川が流れ込み、そこにもヨシ群落が発達する。群落の高さは 1～2m 程でヨシが優占するが、場所によってはアイアシが優占し、エゾウキヤガラが群生している。また、イグサの原種とも言われるシチトウイが生育している場所もある。
藻類	熊本市加勢川支流	A、B、E	3	加勢川上流（別名藻器堀川）は普段は水量がごくわずかの水無川であるが、大雨の度に大量の水とゴミが流れ込んで来る。しかし、水前寺公園からの豊富な湧水によって清流が保たれている。ここには、日本特産の淡水産紅藻オキチモズクなどの希少な藻類が多く生育している。

植物群落の選定理由

A：原生林もしくは、それに近い自然林

B：国内の若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群

C：比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布など、分布境界域の産地に見られる植物群落または個体群

D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地など特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの

E：郷土の景観を代表する植物群落で、その群落の特徴が典型的なもの

F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採などの手が入っていないもの

G：乱獲その他人為の影響によって、県内で極端に少なくなる恐れのある植物群落または個体群

H：その他、学術上重要な植物群落

I：熊本県版 RDB において絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を主要な構成要素として含むもの

カテゴリー

ランク：基本概念／要件

4：緊急に対策が必要／緊急に対策を講じなければ群落（ハビタット）が壊滅する

3：対策必要／対策を講じなければ、群落（ハビタット）の状態が徐々に悪化する

2：破壊の危惧／現在の状態はよいが、日頃から保護・保全の配慮を怠れば、将来破壊される恐れがある

1：要注意／当面は、新たな保護の必要はない

・出典：

「改訂・熊本県の保護上重要な野生動植物（レッドデータブックくまもと 2009）※1」（熊本県）、

「熊本県の保護上重要な野生動植物（レッドリストくまもと 2014）※2」（熊本県）

※1：http://www.pref.kumamoto.jp/kiji_709.html、※2：http://www.pref.kumamoto.jp/kiji_6105.html

資料 17 熊本市における保護上重要な地域（ハビタット）の概要

項目	ハビタット名	保護対象種	選定理由	カテゴリー	概要
哺乳類	天狗山洞窟	ノレンコウモリ、テングコウモリ、コキクガシラコウモリ	B、E、H	3	熊本市西部に位置する金峰山山系の一つ、天狗山の中腹に作られた人工洞。掘削された時期や目的は不明。以前は農作物や種子の保存用として利用されていたらしい。周囲は国有林と民有林で、二次林と人工林がモザイク状となっている。
鳥類	有明海干潟	クロツラヘラサギ、ズグロカモメ、ツクシガモ、シギ・チドリ類	B、E、H	2	有明海は閉鎖性が極めて強い内湾であり、広大な干潟を有している。その面積は全国の干潟面積の約 50%にものぼる。これらの干潟は湾中央側（熊本県、福岡県）と湾奥（福岡県～佐賀県）に特に発達している。熊本県における干潟は、一級河川の菊池川や白川、緑川の河口に発達している砂泥質の干潟である。これに対して、湾奥の干潟は泥質である。これらの干潟には、春と秋の渡りのシーズンになると、かなりの数のシギ・チドリ類が中継地として渡来する。
海洋動物	熊本市北西部干潟（河内・塩屋周辺）	イソチドリ、ハイガイなど 10 種以上	B、F、H	3	熊本市北西部の河内～塩屋海岸は熊本市唯一の自然海岸で、有明海特有の泥干潟生態系が良好な状態で残っている。ここには数多くの希少種が生息しており、保全価値が高い。しかし、かつて塩屋に存在した塩性湿地の生物群集は漁港の浚渫・拡張工事によって失われた。
	熊本市白川・緑川河口	ゴマフダマ、ハマグリなど 10 種以上	A、B、E、F、H	3	熊本市白川～緑川河口～宇土半島北東部には広大な干潟が存在している。有明海湾中央側の熊本県の干潟は、湾奥の佐賀・福岡県の泥干潟と異なり、砂泥底～砂底が優占する。ここは有明海の砂質および砂泥質干潟を代表する広大な干潟で、良好な干潟生態系、塩性湿地が存在する。

ハビタットの選定理由

- A：国内において極めて稀な種が生息しているハビタット
 B：県内において極めて稀な種が生息しているハビタット
 C：熊本県固有種が生息しているハビタット
 D：生物地理学上の分布境界域（北限・南限・隔離分布など）にあたる種が生息しているハビタット
 E：特殊な立地（砂丘・断崖地・塩沼池・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地・洞窟・干潟・岩礁など）に特有な種が生息しているハビタット [注] 海洋生物の特殊な立地は「干潟、塩性湿地、アマモ場、外洋砂浜」とする
 F：乱獲その他の人為的影響によって、県内で極端に少なくなるおそれのある種を含むハビタット
 G：模式標本となっている個体の産地など、学術上重要なハビタット
 H：熊本県版 RDB において、絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を含むハビタット

カテゴリー

ランク：基本概念／要件

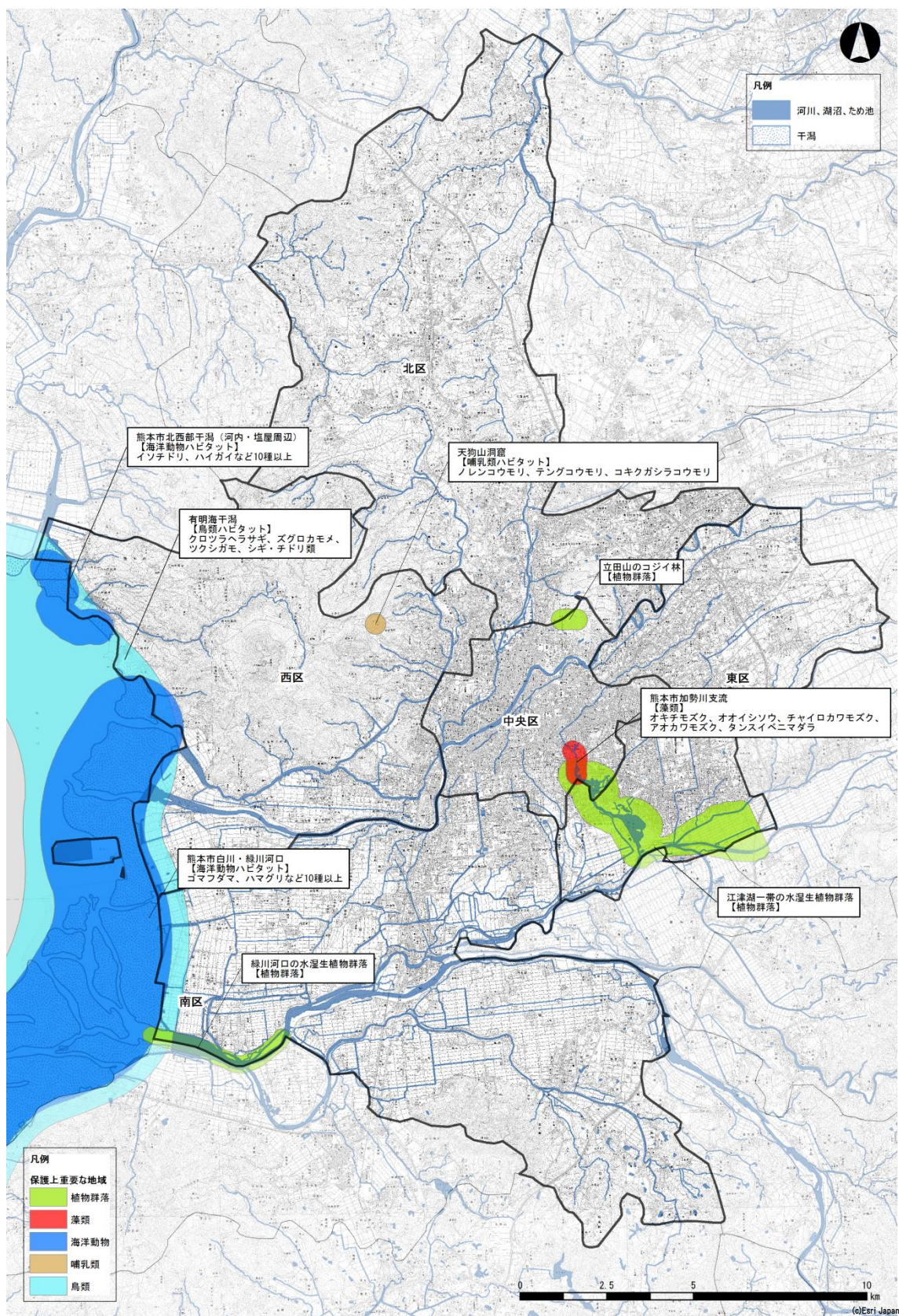
- 4：緊急に対策が必要／緊急に対策を講じなければ群落（ハビタット）が壊滅する
 3：対策必要／対策を講じなければ、群落（ハビタット）の状態が徐々に悪化する
 2：破壊の危惧／現在の状態はよいが、日頃から保護・保全の配慮を怠れば、将来破壊される恐れがある
 1：要注意／当面は、新たな保護の必要はない

・出典：

「改訂・熊本県の保護上重要な野生動植物（レッドデータブックくまもと 2009）※1」（熊本県）、

「熊本県の保護上重要な野生動植物（レッドリストくまもと 2014）※2」（熊本県）

※1：http://www.pref.kumamoto.jp/kiji_709.html、※2：http://www.pref.kumamoto.jp/kiji_6105.html



資料 18 熊本市における保護上重要な地域の位置

・出典

市町村界：「全国市区町村界データ」（Esri Japan）、干潟：「第5回自然環境保全基礎調査植生調査（干潟調査）」（環境省）、河川、湖沼、ため池：「熊本県環境特性情報データベース（第2版）」（熊本県）、保護上重要な地域：「改訂・熊本県の保護上重要な野生動植物（レッドデータブックくまもと2009）」※1（熊本県）、「熊本県の保護上重要な野生動植物（レッドリストくまもと2014）」※2（熊本県）をもとに作成した。

※1：http://www.pref.kumamoto.jp/kiji_709.html、※2：http://www.pref.kumamoto.jp/kiji_6105.html

背景図：「数値地図25000（地図画像）熊本」（国土地理院）

資料 19 熊本市における特定植物群落の概要

名称	選定理由	群落の概要※
立田山のコジイ林	E	立田山の南側中腹にある立田山自然公園は細川家の御廟所のある泰勝寺跡で県の史跡として市民に開放されている。調査地はその公園裏側の森林で、相当、樹齢を経たコジイを主とする林で、極相に近いと思われるものである。 高木層は樹高 20～23m あり、胸高直径は 43～48 cmある。コジイに次いで、アラカシ、そのほかナナメノキがある。クスノキやカゴノキの大木もあり、落葉樹も僅かではあるがボロボロノキとヤマハゼがコジイの樹冠と競い合っている。亜高木層でもコジイが優勢で、アラカシ、カクレミノ、ボロボロノキ、イヌビワ、ハマクサギが混交しており、キダチニンドウ、テイカカズラのような大きな蔓が伸びている。低木層の優占種はコジイで、イヌビワ、カカツガユ、タラヨウ、ハクサンボクなどもある。草本層にはオオカグマが多く、コバノニセジュズネノキが群生した個所もある。また、コ克蘭、オオバヌスビトハギ、ミソナオシ、ツルコウジなどもこの林内で見られる。 (調査日：1986 年 10 月 17 日)
金峰山三ノ岳 スダジイ林	A	金峰山三ノ岳山頂にある聖徳寺下の急峻な東斜面には小面積ではあるが、社寺林としてスダジイ林が残存する。高さ 13mに達する高木層(植被率 80%)にはスダジイをはじめイスノキ、タブノキ、モチノキなどの常緑広葉樹が多く生育する。亜高木層(植被率は 60%)にもヤブツバキ、スダジイ、ヤブニッケイ、タブノキ、ヒサカキなどの常緑広葉樹が多く出現する。低木層(植被率 40%)も上記の幼樹が多い。草本層(植被率 5%)の発達は貧弱である。 本森林はスダジイ—ミミズバイ群集に所属するものと思われる。 (調査日：1978 年 7 月 29 日)
金峰山の イチイガシ人工林	F	金峰山のさるすべり登山口から左回りの自動車道を約 100m登った南東斜面には小面積ながら樹齢 60 年のイチイガシ人工林が発達する。植被率 70%の高木層には樹高 20m に達するイチイガシが優占し、他にクスノキが出現するのみである。植被率 40%の亜高木にはアラカシ、タブノキ、ヤブニッケイなど常緑広葉樹が優勢である。植被率 60%の草本層には、アオキ、ヒサカキが多く出現する。草本層の発達は貧弱であるが、テイカカズラ、チヂミザサ、ヤブコウジなど 30 余種が出現する。 (調査日：1978 年 7 月 29 日)

選定基準

A：原生林もしくはそれに近い自然林

B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群

C：比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群

D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの

E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの

F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないものの

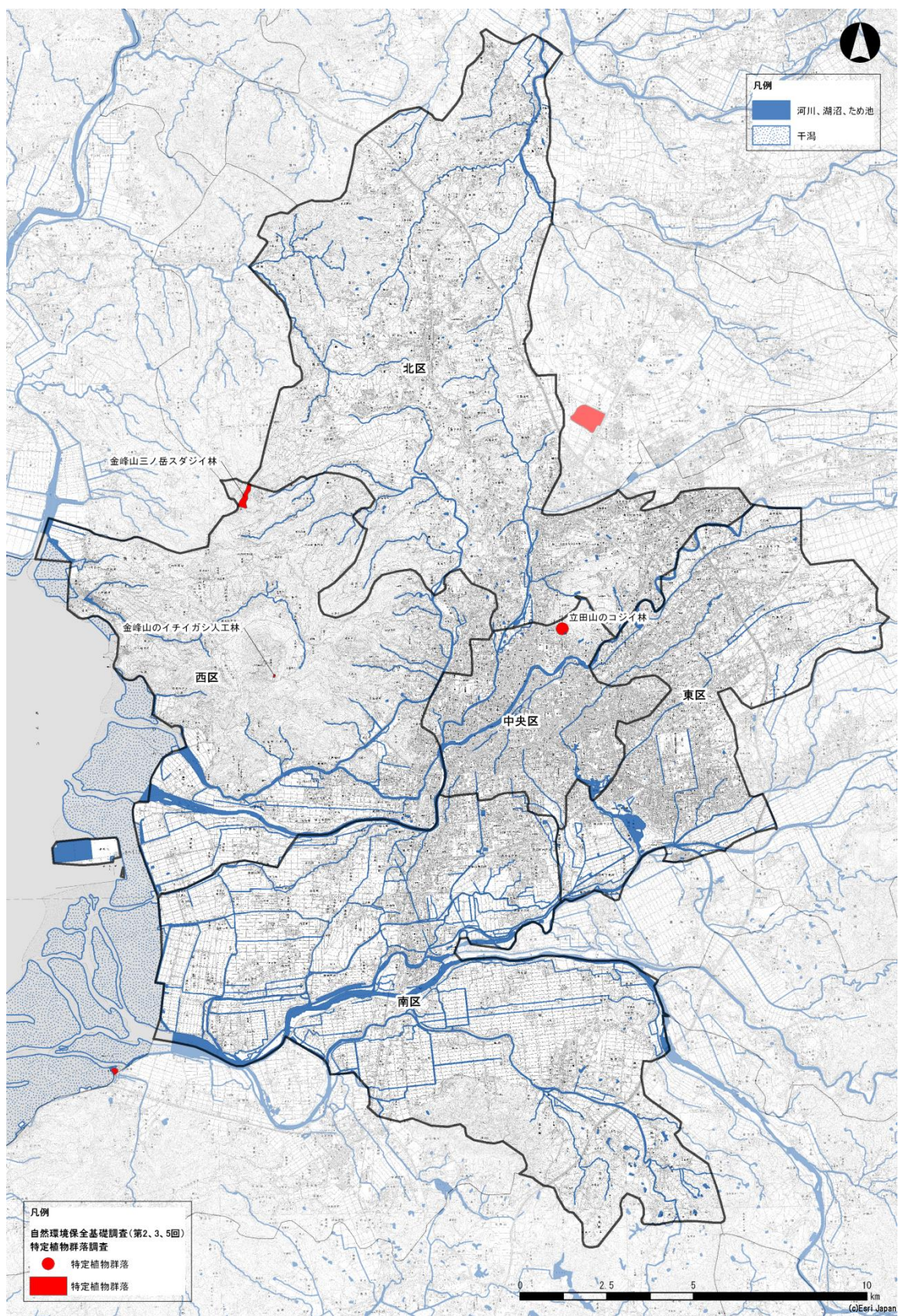
G：乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群

H：その他、学術上重要な植物群落または個体群

注) 群落の概要は、下記の各調査時の森林の状況です。

・出典：

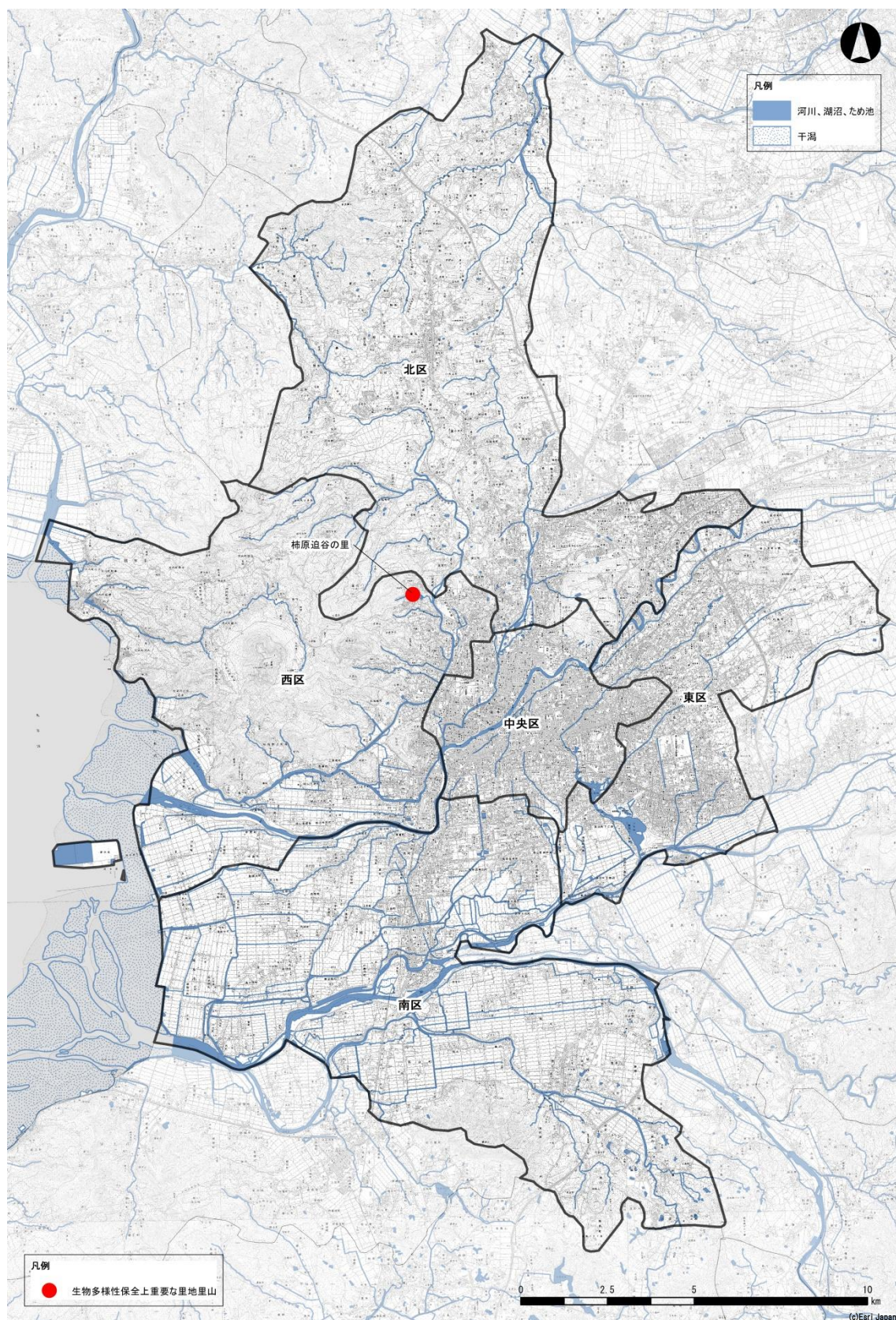
「日本の重要な植物群落（南九州・沖縄版）」（環境庁, 1980）、「日本の重要な植物群落Ⅱ（九州版 2）」（環境庁, 1988）



資料 20 熊本市における特定植物群落の位置

・出典

市町村界：「全国市区町村界データ」(Esri Japan)、干潟：「第5回自然環境保全基礎調査植生調査(干潟調査)」(環境省)、
河川、湖沼、ため池：「熊本県環境特性情報データベース(第2版)」(熊本県)、
特定植物群落：「第2、3、5回自然環境保全基礎調査植生調査(特定植物群落調査)」(環境省)、
背景図：「数値地図25000(地図画像)熊本」(国土地理院)



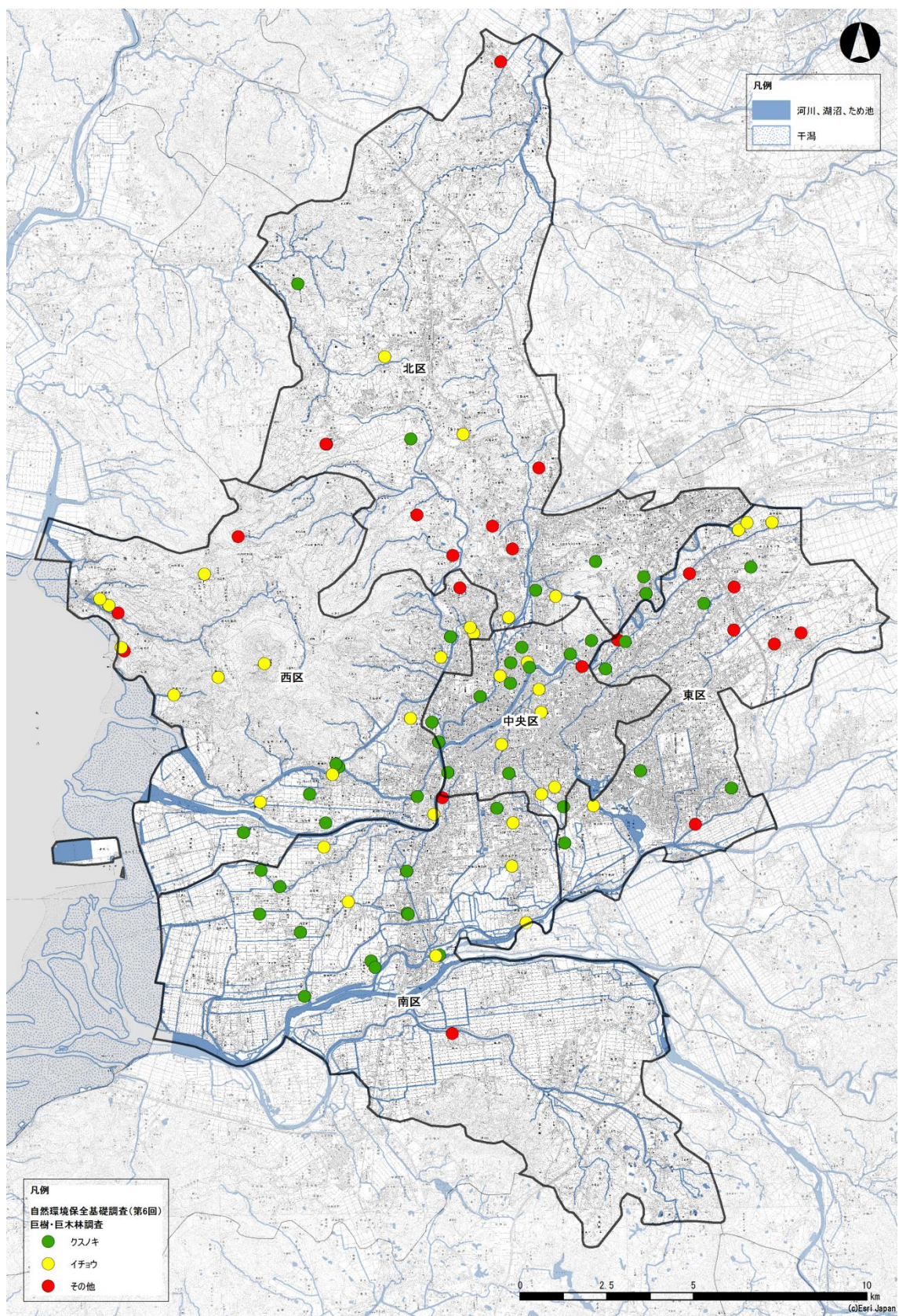
資料 21 熊本市における生物多様性保全上重要な里地里山の位置

・出典

市町村界：「全国市区町村界データ」(Esri Japan)、干潟：「第5回自然環境保全基礎調査植生調査(干潟調査)」(環境省)、
河川、湖沼、ため池：「熊本県環境特性情報データベース(第2版)」(熊本県)、
生物多様性保全上重要な里地里山：「生物多様性保全上重要な里地里山※1」(環境省)をもとに作成した。

※1：<http://www.env.go.jp/nature/satoyama/jyuuyousatoyama.html>

背景図：「数値地図25000(地図画像)熊本」(国土地理院)

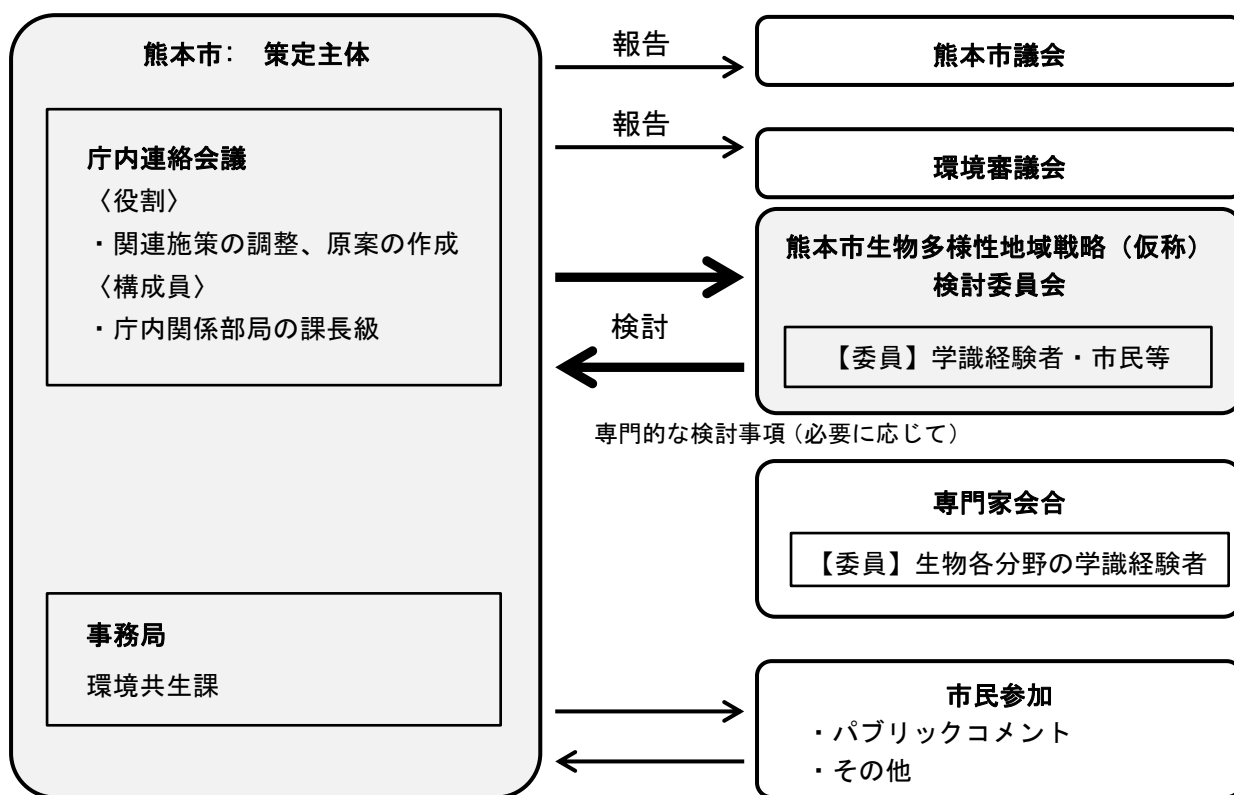


資料 22 熊本市における巨樹・巨木の位置

・出典

市町村界：「全国市区町村界データ」(Esri Japan)、干潟：「第5回自然環境保全基礎調査植生調査(干潟調査)」(環境省)、
河川、湖沼、ため池：「熊本県環境特性情報データベース(第2版)」(熊本県)、
巨樹・巨木：「第6回自然環境保全基礎調査植生調査(巨樹・巨木林調査)」(環境省)、
背景図：「数値地図25000(地図画像)熊本」(国土地理院)

■ 検討体制



■ 戦略策定の経緯

開催日	検討テーマ等
平成 26 年 11 月 19 日	専門家会合 ・基礎調査の手法についての検討 ・生物多様性の重点地域の検討
平成 27 年 3 月 5 日	専門家会合 ・重点地域の生物多様性の現状と課題についての検討 ・区ごとの生物多様性の現状と課題についての検討
平成 27 年 7 月 10 日	庁内連絡会議を設置
平成 27 年 8 月 6 日	第 1 回熊本市生物多様性地域戦略（仮称）検討委員会 ・現状・課題・目標の設定、骨子案の作成
平成 27 年 9 月 4 日	第 2 回熊本市生物多様性地域戦略（仮称）検討委員会 ・行動計画・推進体制の検討
平成 27 年 10 月 8 日	第 3 回熊本市生物多様性地域戦略（仮称）検討委員会 ・素案の作成
平成 28 年 1 月 6 日	パブリックコメントの実施（～2 月 5 日）
平成 28 年 3 月 11 日	第 4 回熊本市生物多様性地域戦略（仮称）検討委員会 ・パブリックコメントをうけた素案の修正
平成 28 年 3 月末	「熊本市生物多様性戦略」策定

■ 熊本市生物多様性地域戦略（仮称）検討委員会 委員名簿

氏名	所属等
石黒 義也	元東海大学農学部課程資格センター博物館学研究室講師 熊本県希少野生動植物検討委員会副会長
内野 明德（委員長）	熊本大学名誉教授 熊本県生物多様性保全戦略検討委員会委員長
甲斐原 巖	NPO 法人コロボックル・プロジェクト理事長
仮屋崎 忠	マリスト学園元教諭 熊本県野生動植物検討委員会委員
川上 信久	熊本県 環境生活部 環境局 自然保護課 課長
毛利 浩一	株式会社 杉養蜂園 代表取締役会長 熊本商工会議所 常議員
森貞 和仁	森林総合研究所 九州支所長
横田 寿男	環境省 九州地方環境事務所 野生生物課 課長
（市民公募委員）	
大住 和佑	（市民公募）
永井 幸人	（市民公募）

五十音順、敬称略

■ 専門家会合 学識経験者名簿

氏名	所属等	専門分野
石黒 義也	元東海大学農学部課程資格センター博物館学研究室講師 熊本県希少野生動植物検討委員会副会長	両生類 爬虫類
内野 明德	熊本大学名誉教授 熊本県生物多様性保全戦略検討委員会委員長	自然環境全般
仮屋崎 忠	マリスト学園元教諭 熊本県希少野生動植物検討委員会委員	植物
坂田 拓司	熊本市千原台高等学校 熊本県希少野生動植物検討委員会委員	哺乳類
坂梨 仁彦	熊本西高等学校 熊本県希少野生動植物検討委員会委員	鳥類
寺崎 昭典	寺崎動植物研究所 熊本県希少野生動植物検討委員会委員	昆虫類
藤井 法行	日本魚類学会会員 熊本県希少野生動植物検討委員会委員	魚類
逸見 泰久	熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター長 熊本県希少野生動植物検討委員会委員	干潟 海洋環境

五十音順、敬称略